

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：SRS株式会社

定 価：一部 30 円

2013年1月20日

第 357 号

つながりを実感する

理事長 稲松 義人

私が勤務する浜松市南区にある事業所は、浜松福祉協働センターアンサンブル江之島の中にある。もともとは宿泊できる勤労者保養研修センターだった建物を、障がい者福祉推進のために活用しはじめて八年目になる。実際の取り組みでは、中々なされるそれぞれの事業は運営する団体の責任だが、全体としては、参画する複数の事業所が協働で取り組むことを志した。一階六階は市民交流もできるスペースとして地域の人たちの参画も期待しつつ新しい福祉推進のモデルづくりをめざしている。アンサンブル江之島開設一周年のときにそのことを地域の人たちにも呼び掛けたいとの思いからシンポジウムを開催したが、その後なかなか継続して展開できなかった。この間、障害者福祉の法律制度はめまぐるしく変更され、さらに浜松市は合併や政令市への移行など、私たち事業所も行政もその変化に対応することに追われ、その煩雑さに翻弄されたのではないかと思っている。

今月一二日に、七年ぶりに第2回アンサンブル江之島シンポジウムを開催した。テーマは「南区発 地域からの

視点で進める福祉」とした。最初に、小羊学園でも外部理事として助言をしてもらっている聖隷クリストファー大学の山本誠先生に、「今、求められる障がい児者福祉の方向性」と題した基調講演をお聞きした。その後、南区の民生児童委員、地区社協、浜松手をつなぐ育成会の会員で子どもさんが南区にある事業所の利用している保護者の三名にパネリストをお願いして、パネルディスカッションをした。

障がい児者福祉に限ったことではないかも知れないが、「障がい」のことがよく分からないということが、多くの人が障がい者を敬遠する一番の原因になっているのではないだろうか。実際に出会い、ふれあう機会があることが大事。そのためには当事者も自分たちのことを知ってもらえるようにオープンになってほしい。顔が見えることで個別の配慮ができるようになるのではないか。ディスカッションは様々に展開したが、施設の中だけの支援で感じている限界を超えていける可能性が地域にはあることが感じられた。

考えてみれば、入所施設の中で支援をしていても、最初は誰でも初対面から始まる。毎日毎日繰り返しつきあう中で、お互いの距離が近くなっていく。慣れていくことから、その関係は安心感になっていくが、力関係も固定化されてしまいがちではないかと思う。よりの力のある立場の者が、相手の人権に

配慮できなくなってしまうと、親しいと思っている関係の中に虐待に発展してしまう可能性が隠されている。私たちが求めている「つながり」は決してそのような人間関係ではない。きつと、自分自身も相手から大切にされ、同じように相手を大切にしたいという経験の中でよい人間関係の体験の中で、人権感覚が養われると思う。

障がいのある人たちのことを知ってもらうために、地域の多くの方たちに彼らと出会ってほしい。しかし、地域の方たちと彼らとの新しい出会い・つながりが感じられるときには、日常的に彼らと生活を重ねてきた私たちも新しいつながりのあり方を学ぶことになるような気がする。私たちが求められる「施設のオープン化」というのはそういう意味だと思う。行事に参加してもらったり、施設の中で清掃などのボランティアをしてもらったりということだけに留まらないのだと思う。

自分を大切にしてくれる人の存在を実感し、その人のことを大切にしたいと意識できるとき、そこにこそ「つながり」を実感できる。「つながり」を実感することができる場面が、地域の中にたくさん生まれることを願ってやまない。そういう地域こそ、本当の安心できる生活の場となると思う。経済的にも、自分がより多く持つことではなく、みんなで分け合うことで安心感を得ることができると思っている。




イエスさまのご降誕を祝して

今年も法人内の各施設でクリスマスをお祝いで、
礼拝・祝会が行なわれました。今回は、入所部門で
行なわれたクリスマス会を報告します。

生誕劇の復活！

三方原スクエア
児童指導員 田中 伸広

去る12月22日(土)三方原スクエアのクリスマス会が行われました。今年は、以前行われていた生誕劇を行うことや、食堂に温かい飲み物を用意して皆さんにくつろいで頂けるように係で計画を進めました。

当日は朝からクリスマスの音楽が流

れ、スーツ等で正装した利用者はウキウキしている様子でした。始めの礼拝では遠州栄光教会の平野芳子牧師のお話を聞き、讃美歌を皆さんで歌いました。礼拝の後はいよいよ生誕劇です。生誕劇は、イエス様のご降誕された時のお話を利用者と職員が衣装に着替えで演じます。以前はクリスマス会の時に毎年行われていたのですが、現在の新しい建物に移ってからは行われていませんでした。オリーブの樹の山本さんのピアノ演奏と、プロジェクターに映し出された物語の絵をバックに、劇は順調に！？進みます。練習が1回しかなく準備は大変でしたが、そこはベテラン職員を中心とした豪華キャストが大いに盛り上げてくれました。また過去の生誕劇の写真も映し出され、会場からは「懐かしいね」という声も聞かれました。

礼拝後は皆さんお待ちかねの祝会です。昼食は、ローストビーフやチキンの香草焼き、フルーツの盛り合わせなど13種類もの料理がバイキング形式で振る舞われました。味はもちろん、量もたっぷりです。皆さん満足そうな表情で召し上がっていました。ケーキも何



種類もありましたが、あっという間になくなってしまいました。昼食後はサンタクロースとトナカイの登場です。サンタクロース達の面白い動きに会場も大盛り上がりで、子供達の中には自分と同じ位大きなオモチャをもらった子もいました。

クリスマス会は大切な行事で、飾り付けや生誕劇など準備が大変でしたが、当日はたくさんの方々の笑顔が見られ、楽しい思い出となりました。今回は例年よりお客様が少なかったようですが、来年はより多くの方に参加していただき、利用者皆さんと一緒にクリスマスの思い出ができたらいと思います。



改築前最後のクリスマス

支援センターわかぎ
主任支援員 金森 勇人

毎年、利用者、職員ともに楽しんでいるクリスマス祝会が12月19日に開かれました。今年のクリスマス祝会は既存している支援センターわかぎで迎える最後のクリスマスという事で各生活ゾーンはもちろんわかぎ全体を華やかに飾り付けました。飾り付けの際には利用者が過去に行った出し物の話を皆と楽しく会話している姿を見て、利用者にとって長い間、生活をしたわかぎの建物に多くの思い出が詰まっていることを感じました。また、思い出が多い既存する建物との別れが近づいている事に寂しさも感じていました。

当日のクリスマス祝会の昼食はコース形式の料理であり、ウェイトレス、



ウェイターの格好をした職員から提供されていきます。普段とは違う職員の格好で、和やかな楽しい食事の時間となりました。食事を終えると待ちに待ったクリスマス祝会が始まります。三方原スクエア、ミントの家から多くの来客が見られ、浜北教会、佐伯牧師による礼拝から始まりました。礼拝では、佐伯牧師の話を聞き、讃美歌「きよしこのよる」「もろびとこぞりて」を元氣よく歌う姿が印象的です。礼拝の後は毎年恒例、新人職員による出し物とわかきバンドによる演奏会です。新人職員の出し物ではプロジェクト「アのね、サントの国ではね」を披露してくれました。サントの1年間の様子を見て、クリスマスプレゼントへの期待が大きくなっていく利用者の様子が感じられました。

ました。わかきバンドでは、利用者たちがステージにてバンドたちと供に歌い、踊る事で大変賑やかで楽しい時間となりました。今回で、最後となるクリスマス祝会でしたが、新しい建物になっても利用者の想い出となり、いつまでも話が出てくるような盛大なクリスマス祝会を今後も開催していきたいです。

「ずっと解けていく」

つばさ静岡
生活支援員 村田 真

本年度もつばさ静岡の年間行事の一つであるクリスマス会が12月16日に行われました。利用者とその家族、そして職員の総勢200人強の人々が一堂に会す大イベントです。その概要は大ホールでの礼拝と祝会で幕が開き、その後、6つある各ゾーンに分かれ、この日の為に工夫を凝らした食事と職員たちの個性豊かなイベントを皆で楽しむというものです。クリスマス会に向けての準備は、各ゾーンとリハビリ科、事務所、厨房の各代表者数名が実行委員として10月初旬の第一回会議を皮切りに動き始めます。全体の把握をするリーダー以外の委員は、食事担当、イベント担当、装飾・発注担当、ボランティア担当の4つの担当に別れ行動すると共に各ゾー

ンの中心に立ち、会議での決定事項の伝達と周知や食事、イベント、装飾、プレゼント等の係に振り分けられた職員の傍らで動きます。



当日、普段聞かれることのないとても多くの人々のざわめきは、そこに集う人々の気持ちを自然と高揚させていきます。そして、何週間前から少しずつ飾り付けられていったクリスマスの装飾は、その日を迎えることによりよりいっそう輝きを増していきます。その様な特別な雰囲気の中、利用者とその家族、職員が同じ時間、同じ場所を共に有することで、それぞれの人々がそれぞれの思いを抱くことができる自由が生まれていったように感じます。



普段、知らず知らずのうちに大きな流れに流されて凝り固まっているものがずっと解けていく、そのような日であればよいのではないかと思うクリスマス会でした。



アンサンブル江之島 シンポジウム

アグネスみなみ 青木 李香

昨年4月に、浜松市から小羊学園が浜松福祉協働センター（通称アンサンブル江之島）のマネジメント事業の委託を受けました。私は縁がありこのマネジメント事業をやらせて頂いています。アンサンブル江之島は、浜松市の建物に3つの民間事業者が入り運営されています。

マネジメント事業計画の一つに、地域交流事業があります。地域住民に対する啓発事業ということで、1月12日（土）に第2回シンポジウムを開催しました。聖隷クリストファー大学教授の山本誠氏を講師に招き、「今、求められる障がい児者福祉の方向性」という題で基調講演をして頂きました。参加者は主に南区の民生委員や事業所の関係者など、75名の人が集まりました。基調講演の後には、「地域からの視点で進める福祉」と題し、パネル・ディスカッションをしました。パネル・リストには、竹内忠弘氏（南区民生委員児童委員協議会会長）、鈴木礼子氏（新津地区社会福祉協議会副会長）、安藤幸枝氏（浜松市浜松手をつなぐ育成会）を招きました。山本氏の講演では、障がいのある人にかかわる施策の動向や、浜松市に住んでいる障がいのある



人の状況、障害者自立支援連絡会の役割、障がいのある人を支えるにはどんな人たちがいるかなど、貴重なお話を聞く事ができました。最後に「協働」の視点からの地域づくり、街づくりとして、アンサンブル江之島だから、南区だからこそできること、私たちの街だからこそ、私たちが考え、発信していくことの大切さを教えてくださいました。

パネル・ディスカッションでは、パネリストのそれぞれの活動内容や課題、地域からの視点からこれからの市民福祉のあり方についての意見を聞きました。障がいのある人が、地域のつながりの中で生活ができるようになることが大切だと改めて感じました。

歳末たすけあい募金 配分金ありがとつございました

本年度もつばさ静岡の年間行事の一つであるクリスマス会を12月16日に開催することが出来ました。この日の為に練りに練られた食事や職員たちの個性豊かなイベント、そしてクリスマスプレゼント等で入所されている利用者の方々に有意義なひと時を過ごして頂くことが出来ました。本当にどうもありがとうございました。がとつございました。



支援センターわかぎ 現存建物お別れシンポジウム

支援センターわかぎのあゆみ

～私たちが受け継ぐもの～

日時：平成25年2月9日（土）13時半～16時

場所：なゆた浜北3F 大会議室

▶シンポジスト

- 舟橋 洋 氏（初代若樹学園長）
- 中村 進 氏（旧職員、現上田いずみ園長）
- 松原 康好（現支援センターわかぎ施設長）
- 小原 英世（現支援センターわかぎ事務長）
- 古橋 誠（支援センターわかぎ副施設長）

入場無料です。ご参加下さい。

編集後記

支援センターわかぎの改築計画がいよいよ本番間近になってきた。3月には先行解体工事が始まり、長く付き合ってきた現在の建物ともお別れとなる。昭和53年の開設時、当時としては全国的にも先駆的な小舎制を導入（現在のユニットケア）した。月日が経つにつれ、利用者も身体のおちこちにトラブルを生じるようになってきた。身体機能低下や高齢の利用者が安全でかつ個別的な対応ができる整備を目指す。仮設期間中は苦勞することも多いが、新しい建物での暮らしを夢見て乗り越えたい。皆さんもお覚え下さい。

本格的な冬将軍の到来です。毎日、寒い日が続きますがどうぞお身体ご自愛下さい。

小羊学園を支える会

2012年度寄付金報告

12月受付分 1,761,902円（117件）
累 計 4,725,708円（351件）

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局（鈴木）
三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833